

# いっしょにお勉強、ありがとうおめでとう。

2010年2月17日、中部支部・北陸地区に於いて、「初級デジタル講座」と題して、講習会を開催しました。

この講習会は、中部支部、財団法人富山市文化事業団を両主催とし、以下の各団体の共催・協力を得て実施しました。

共催： 北陸舞台演出事業社協会  
北陸各県公立文化施設協議会

協力： ウシオライティング(株)  
(株)剣プロダクション  
(有)タマ・テック・ラボ  
(株)ファーストエンジニアリング  
(株)松村電機製作所

## 日程等

- 1 講座名 初級デジタル講座『アナログからデジタルへ』
- 2 講座内容 デジタル機器・デジタル信号概論  
協賛各社出展による機材のプレゼンテーション  
バーチャル空間におけるシミュレーションの現状、等
- 3 開催場所 富山市芸術文化ホール（オーバードホール）
- 4 日時 平成22年2月17日(水)  
09:30 受付開始  
10:00 挨拶、照明ショー開演  
10:30 初級デジタル講座其の1  
12:30 初級デジタル講座其の2  
13:40 初級デジタル講座其の3  
14:30 バーチャル空間におけるシミュレーション等について  
15:30 実際に触ってみよう  
また、各講師への質問コーナー  
16:30 終了・参加者全員で撤収開始（予定）  
17:30 撤収終了・流れ解散（予定）  
19:00 近隣某所にて懇親会(有志のみ)
- 5 受講料 照明家協会員 無料 非会員 500円（資料代として）

この企画は2009年度当初から、北陸地区の運営委員会で案を持ち寄り、展示会を含めたかなり「大がかりな講習会に」と発案したのですが、紆余曲折を経て講習会だけを実施することし、一部委員の尽力で財団法人富山市文化事業団さんが全面的にバックアップして下さり、北陸地区最大級で可動式3面舞台を持つ、富山市芸術文化ホール（オーバードホール）で開催の運びとなりました。

## 主旨

『日頃、最新のデジタル機器に触れる機会の少ない地方の現状に合わせ、また「デジタル？」のお父さん達が多数を誇る？ ことも考え誰でもわかる(だろう)初級の講習会を開催する。できれば、この講習をきっかけとして日頃交流のない方々ともお近づきになろう。』

この主旨に基づき、協会員、業界人だけでなく、とかくトラブルの種とも話題の多い、ビル管理会社の方々にも照明さんの活動を理解してもらおうと、広くお声掛けをすることにしました。この際、財団法人富山市文化事業団さんから文化事業の周知・拡充を図るため、一般の方の受講もお願いしたいとの申し出がありました。この件を承諾いただけるならば富山市芸術文化ホール（オーバードホール）の使用を事業扱いとする旨、また経費の負担を一部請け負うと、併せて申し出がありました。

この申し出は、この企画の本分であると考え、ありがたく好意に甘えることとしました。このため、富山市内の公的施設に開催のチラシを置き、市の広報に開催の告知を掲載しました。また北陸各県公立文化施設協議会を通じて、北陸3県の各ホールに告知し、別に各県の公文協に加盟されていない小さなホールを各運営員が洗いだし告知の情報を提供し、当然、3県の各企業にも告知し講習会への参加を呼びかけました。

## 内容と方針

日本照明家協会の2級試験の講義内容に準じたカリキュラムとし、ベテランにとっては「おさらい」、初心者にも解り易く、素人さんには「へえ～！」と感じていただく内容とすることとし、また講義の詳細は講師との相談で決定することとしました。

この方針に基づき、さっそく講師の選定にあたりましたが、北陸の会員からは快諾を得られず、また総予算の規模から中部支部(名古屋地区)からの派遣も許されない状況だったため、一時企画そのものが暗礁に乗り上げた形となり、中止を決定する直前まで追い込まれました。この状況を、富山市芸術文化ホール(オーバードホール)となじみの深い(株)松村電機製作所さんに話をしたところ、機材の手配並びに講師の手配まで請け負うとの申し出があり、今回はその申し出に甘えることとしました。これには一運営委員のお骨折りがありません。(この紙面でお礼を申し上げます、ありがとうございました。)

## 結局

上に記した協力企業の方々が自社製品のアピールも含め次のような講義内容の講師を務めることになりました。

### 1. 初級デジタル講座・其の1

「アナログからデジタルへ」

講師 株式会社松村電機製作所・岩澤氏

### 2. 初級デジタル講座・其の2

「デジタル照明卓及びインサート・ワイレスDMX等信号系」

講師 株式会社剣プロダクション、ケン・ラーマズ氏  
株式会社タマ・テック・ラボ 玉田氏

### 3. 初級デジタル講座・其の3

「バーチャル空間におけるシミュレーション」

講師 株式会社ファーストエンジニアリング  
エポライトテクニカルサポート 横山氏

また、講習に先立ち、ウシオライティング(株)の板橋氏にご自慢の最新機器プロジェクタームービングDL のデモンストレーションと説明をお願いしました。

## えっ！こんなに・・・

昨年末から多方面に情報を発信した成果もあって、募集を締め切るときにはなんと96人の応募がありました。この中には明かり屋さん・業界人以外に15名ほどの大学生等の一般人も含まれます。

当初、「いいとこ50人位集まってくれたらうれしいよね」と、話しあっていましたが予想をはるかに上回る応募と素人さん達の多さに、一瞬たじろぎ頭を抱えることになりました。しかし、応募していただいた方々こそ、協会の次の財産につながると信じ、急きょ全くの別室でビギナーの講座を開催することに準備しました(ただし「リクエストがあれば」の条件付き)。

## さていよいよ・・・

何かと問題も抱えながら、いよいよ開催の前日となりました。以前からの打ち合わせ通りオープニングの照明ショーのため、前もってお願いをしておいた



さあ、しこむぞ！

北陸舞台演出事業社協会の関係者の方々がノーギャラにもかかわらず多数お集まり下さり、会館スタッフも含め約 30 名近いメンバーが手持ちのデジタル機器も持ち寄り、仕込みを始めました。

プランとデザインを担当した金沢舞台・新矢氏の打ち込み、舞台機構も含めたランスルーは深夜にもおよび、舞台を担当した劇場スタッフの並々なら

ぬ熱意に本当に頭が下がりました。

明けて本番当日です。昨夜来から降り始めた雪のため開始を遅らすことも考えられましたが、何ら支障なく皆さんが集まりました。(この時期、協会のイベントをすると必ず雪が降るんだよなー。ちなみに雪国といえども富山では毎日雪が降っているわけでは決してありません。) 富山県文化振興財団の職員が、手慣れた様子で受付業務を行っていました。曰く「餅は餅屋」だそうです。(本当にありがとうございました。ノーギャラなのに！)

そんなこんなで始まった講習会。新矢氏苦心の照明ショーも「やんや」の喝采で幕を閉じ、北陸共立井下田氏の機材説明の後、プロジェクタームービングDL のデモンストレーションも見事に決まり(さながらバンクーバー五輪のオープニングのようでした。) 順次講習を進めました。

午前中の講習終了後、ビギナーの方々に別の講習を呼びかけましたが応募者全員がそのまま受講を続けることとなり、当方の準備は空降りに終わりました。

ビギナーには少々ハードルが高いはずですが、みんな興味津津。

皆さんがついてくると言ってくれた意気込みにこれまた感謝でした。



オーバードホールの広い舞台の上で、講義に聞き入っています。

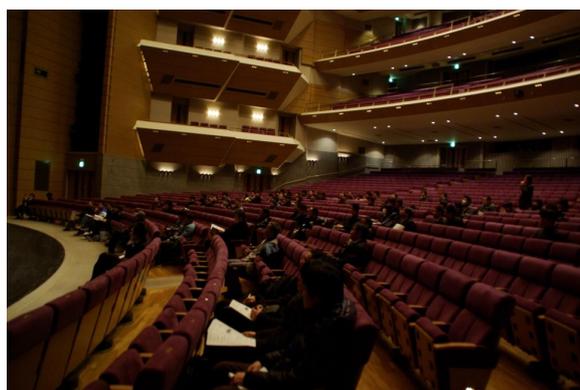
やれやれ・・・

たびたびの休憩をはさみ、順調に講習は進みます。一番恐れていた、「グオー・グオー」の効果音も聞こえることなく、ビギナーさんからのブーイングもなく全ての講習が終了しました。

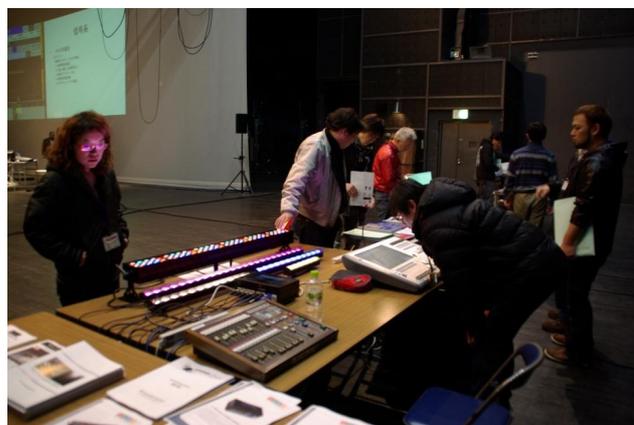
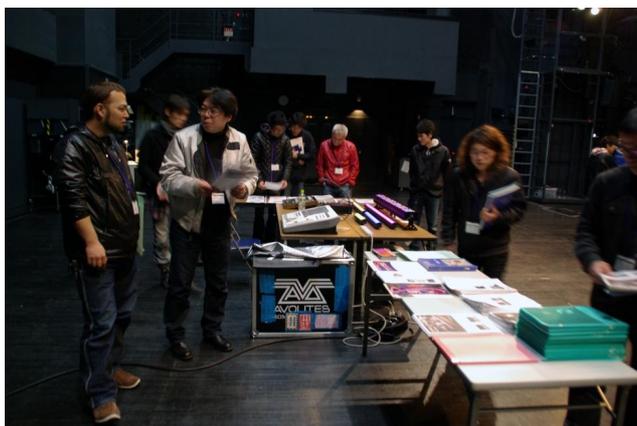


すべての講義が終了後、質問コーナーを設け講師の方々にアンサーをお願いしましたが、ひたすら奥ゆかしい北陸人のこと、案の定客席からは無音でした。

あらかじめ用意していた定番の質問のアンサーに客席は大きく首を(縦に)振っていました。(ま、これはこれでよかったのかも)

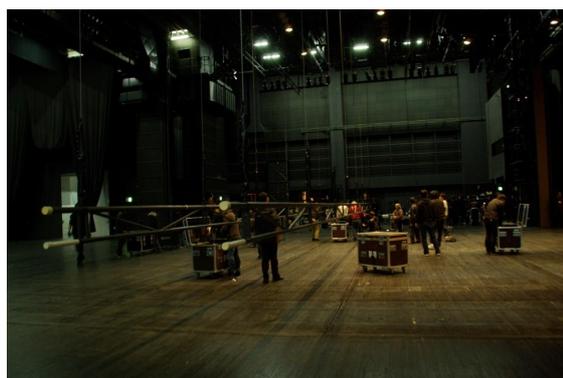


質問の後はせっかくの機会だからと機器に触れるよう促しましたが、これまた奥ゆかしい北陸人、エンジンのかかりが遅い。それでも一部の方は熱心に見て回り盛んに質問をしていました。



戦いすんで日が暮れて・・・

さあ全ての日程が終了しました。  
お約束通り、参加者全員での撤収作業です。業界人はステージを、素人さんは裏方を、みんな仲良くおかたづけ！（幼稚園生でもやれるのだから、大人の皆さんは当たり前ですよ！）



すべての撤収作業が終了の後、お待ちかねの懇親会になだれ込みだ～。

(今回は、誰彼関係なく全員実費)

こうして、長い長い一日は大好評のうちに幕を閉じたのでした。

おおむね好評をいただいた講習会でしたが、本当にお越しいただきたかった照明とは縁のない管理者等の方々に、今一つこちらの意図が伝わっていなかったように思われ、反省しています。(参加者の顔ぶれからそう判断しました)

次回の企画には同じ文化事業に携わる者どうしの観点から告知・勧誘の方法を洗い直す必要があると考えています。

**全ての関係者の皆さん・全ての参加者の皆さん  
大変お疲れさまでした。**

**そして大変ありがとうございました。**

**次回の企画にもお気軽にご参加ください。**

記：中部支部副支部長 桶谷正人

記：中部支部副支部長 桶谷正人